

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会) INQUA分科会

更新日 2012/10/26

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際第四紀学連合

(欧文) International Union for Quaternary Research

(略称) INQUA

日本学術会議加入年(西暦) 1953 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Margaret Avery	N.A.	K. Okumura and 4 others	Julius Lejiu
(国)	South Africa	N.A.	Japan	Uganda

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

4年ごとの大会の3ヶ月前までに、加盟国国内委員会から国ごとにポジションを指定して推薦。大会1ヶ月前に国際評議員会議事案とともに候補者名を公表。大会時に国際評議員会で投票。分担金カテゴリーに関わらず1国1票。

加入国・地域の数 47ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

U.S.A., U.K., Italy, France, Germany, Australia, China, Russia, Netherlands, New Zealand

国際学術団体のホームページURL <http://www.inqua.org/>

国際学術団体の年間運営経費 平均約3000万円

日本の分担予定額[事務局で記入] 1,418千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの参加者数	学術会議共催/協賛の有無
2011	XVIII INQUA Congress	Switzerland	2000	80	無
2009	Dead Sea Wrokshop	Israel	85	2	無
2007	XVII INQUA Congress	Cairns, Australia	994	47	無
2007	Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific	Tsukuba, Japan	143	108	有
2003	XVI INQUA Congress	Reno, U.S.A.	1059	46	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの代表者名	学術会議の代表派遣
2012	Executive Committee	Brussels, Belgium	9	奥村晃史	0
2011	International Council	Bern, Switzerland	43	斎藤文紀	2
2011	Executive Committee	Zanzibar, Tanzania	12	奥村晃史	0
2010	Executive Committee	Marza De Vallo, Italy	11	奥村晃史	0
2009	Executive Committee	Sedona, U.S.A.	10	奥村晃史	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

Quaternary International: 16 issues in 2008, Quaternary Perspective: 1 to 2 issues per year

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
国際連合が実施する国際惑星地球年(IYPE)に企画実行母体の一つとして活動。IYPE執行部に複数の元INQUA執行委員会メンバーが参加し、INQUA前会長が、プロジェクト実行に主導的な役割を果たしている。
国際機関等への提言等
国際地質科学連合に対して地質年代層序の改訂を提案して採択された。
国際事業等への参加・実施等
ICSU加盟地球科学ユニオンの主要なメンバーとして、国際極年、アフリカ振興支援等に参加。IGBP-PAGESに対して研究成果の発信を行うと共に、研究者が密接な交流を保っている。IGCPに複数の研究プロジェクトが参加し、IGCP 567など独自に運営するプロジェクトも存在する。
全世界的/地域的研究課題への取組み
地球・地域規模での気候・環境変動を解明する基礎としての古気候・古環境変動を地球全域で学際的に展開。主導的な役割を果たしている。INQUAの研究成果は直接間接に、IGBP-PAGESによる古環境復元、IPCCによる地球環境変動解明に活かされている。
発展途上国への対応
発展途上国の研究者に対しての参加経費の補助を、INQUA Congress(4年に一回数十名)、INQUA Project(毎年15前後のプロジェクトで1~数名)、Research Commission主催研究集会(毎年10前後で1~数名)実施している。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

最近数百年~数十万年の環境変動の解明は地球環境変動予測の基礎となるため、地球物理学、地質学、環境科学、生物学などと協調して、実証的データの蓄積と分析を進める。自然災害についても同様に、災害予測と評価の基礎を理学・工学の広い分野と密接に協力して研究をすすめている。

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
副会長	奥村晃史	2011	2015
海洋研究委員会委員	横山祐典	2007	2011
古地震研究委員会委員	奥村晃史	2003	2007
テフラ火山研究委員会委員	鈴木毅彦	2003	2007
ネオテクトニクス委員会セクレタリ	奥村晃史	1999	2003

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 INQUA分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

INQUA国内委員会・国際第四紀学連合第19回大会組織委員会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本第四紀学会	1450	http://quaternary.jp
日本地理学会	3200	http://www.ajg.or.jp
日本地形学連合	600	http://www.jgu.jp
日本地質学会	4500	http://www.geosociety.jp/
東京地学協会	750	http://www.geog.or.jp

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 INQUA分科会
 所属分野別委員会 地球惑星科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
奥村晃史	斎藤文紀	渡邊真紀子	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	10	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

1. INQUAと連携して国際的・国内的に第四紀学の振興、普及および社会貢献を推進する。2. INQUA と関連機関役員等の推薦、国際会議等への代表の派遣。3. 国際的キャンペーン・共同研究企画に対応する。4. 2015年第19回INQUA大会（名古屋）の準備

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/10/20	2015年に名古屋で開催する国際第四紀学連合第19回大会について、大会組織委員会から進捗状況の報告を受け、11月末日締切の日本学術会議との共同主催申請の内容について検討した。
2011/12/27	分科会役員を選出。2015年第19回 INQUA 大会日本開催決定までの過程の紹介と、対応状況の説明。今後の準備の進め方についての検討。
2011/8/16	2011年第18回 INQUA 大会（スイス・ベルン）報告。第18回大会で決定された2015年第19回大会の日本開催への対応の検討。日本第四紀学会と協力して大会組織委員会を設立する
2010/12/27	2011年第18回 INQUA 大会（スイス・ベルン）への対応。役員候補者・名誉会員推薦、派遣代表候補選考。2015年第19回大会日本招致活動の報告と今後の方針。
2010/8/21	2015年第19回大会日本招致活動の報告と今後の方針。第四紀の新しい定義に関わる公開シンポジウム開催報告、および新しい定義の普及。
2010/5/10	INQUAテフラ火山研究グループ主催の国際シンポジウムを鹿児島県霧島市ほかで5月17日まで開催した。海外30名、国内50名が参加して、最先端の研究について充実した会議が実現した。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1. INQUA のニューズレターを日本第四紀学会会誌に掲載. 2. INQUA に関連する国内・国際会議の案内を国内の複数の学術刊行物・ウェブサイトで広報. 3. INQUA に関連する各種活動の報告を国内の複数の学術刊行物・ウェブサイトで報告.

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本第四紀学会幹事会に INQUA 分科会委員長が常任のメンバーとして出席して INQUA および関連国際機関対応につき議論するとともに、幹事・会員メーリングリスト、学会広報誌を通じて、最新の情報を常に供給し、多数の学会員が連携に直接間接に参加している。第四紀の定義と地層区分命名問題に関してIGU分科会と密接に強調をしている。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

INQUA における日本のプレゼンスを高めるため、副会長選出、国際プロジェクト実行(毎年15研中1件)、執行委員会日本開催、機関誌の特集号編集をすすめた。第四紀研究関連の研究者複数を会員・連携会員に推薦したが認められなかった。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

非常に高いレベルで日本から INQUA への発信、INQUA 運営への参加、第四紀研究の国際的な展開が進められている。また2015年 INQUA 招致にの準備が活発に進められていて、INQUA 分科会の責務は全うされている。当面の課題は国内で普及広報活動の活発化である。